

アベソウリハコタエテイナイ

朝日新聞 5月29日夕刊「素粒子」に注目した。きのうの国会を見て思う、と標題の頭文字をもとに綴られる。

新しい文書が出てるのに
尊大な態度でヤジに応酬
理屈をこねくり回しては
国会で妻が話題になると
延々と聞かれてないこと
「印象操作」と言い返す
一点の曇りもないなんて

べらべら同じ答弁を続け
「うそ」の疑い強まった
はぐらかし かわすだけ
ただただ関与を否定した
手前勝手に並べた揚げ句
なぜ、いまも言えるの？

写真は29日朝刊「疑惑 正面から答えない首相」と大きな見出し。安倍首相の答弁は酷すぎる。自らの疑惑を「つくられた話」と述べ、妻の関与については「政治の世界において大きな問題になってきた贈収賄では全くない。そういう文脈の中において、私は『一切関わっていない』と申し上げている」首相自身や昭恵氏による関与が発覚すれば「首相も国会議員もやめる」と答弁していたことから、「関与」の定義を金品の授受に絞った形だ。自分が明言したことを、さっとすり替えてしまう。

「これが今話題の『ご飯論法』ってやつですよ。すり替えて、まともに答えようとしなさい」。小池晃氏は首相の答弁をこう評した。「ご飯論法」のものは法政大の上西充子教授のツイートだ。働き方改革関連法案をめぐる加藤勝信厚生労働相の答弁について、朝ご飯は食べたのかとの質問に「(パンは食べたが) ご飯は食べていない」と答えているようなものと指摘。食事をしたのか聞いているのに「米の飯」は食べていないとずらす答え方が、加計学園問題にも当てはまるなどとネット上で広まった。首相と加計氏との面会が記された愛媛県の文書について、首相は「コメントする立場にはない」と繰り返し強調。その上で「私から直接依頼や指示を受けた人はいないことは明らかになっている」といった答弁を続けている。面会したかどうかを聞いているのに関与がないことを強調する姿勢を「ご飯論法」になぞらえたものだ。

記事を読んで、「厚顔無恥」という言葉を思い浮かべた。こんな答弁を繰り返す安倍政権に対する支持率が、それほど下がらない。マスコミの追及も弱い。このことに危機感を感じる。「アメフト日大」ばかりのテレビだけではなく、新聞でも読売29日社説は「繰り返しの論議に辟易する」などと、安倍首相とともに野党の責任を問う。この1年余りの経過を考えると、安倍首相夫妻と取り巻きの責任は明らかなのだが。

(2018年5月31日)

